「助け主であるご聖霊」

ヨハネ１４：１６－１７

堀田修一　２４・５・１９

本日は、ペンテコステ、五旬節です。これは 50 日目の祭日という意味で、旧約時代、大麦の初穂の束を捧げる日から数えて 50 日目に行われた（レビ２３：１５以下）。新約時代、主の復活と昇天の後、五旬節の日に、約束の御聖霊が世に下り、新しいいのち、力、恵みがもたらされた。この日は聖霊降臨日、ペンテコステとも呼ばれます。主の復活から５０日目がペンテコステ礼拝です。

Ⅰ「そしてわたし（御子）が父にお願いすると、父はもう一人の（父・子・聖霊が同等の神であることを示す言葉）助け主をお与えになります。その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます」：１６。

１．このみことばで、主は、助け主である聖霊が主を信じる人たちに与えられることを約束されている。聖霊を示す「助け主」の原語は、パラクレートスです。この「パラ」は「傍らに」、「クレートス」は「呼ばれた者」の意。御聖霊は、神から遣わされ、私たちの「傍らに呼ばれ寄り添って下さるお方」です。私たちといつも共におられ、祈り呼び求める時に、助けて下さるご聖霊は、慰め主（パラクレートスの名詞形は、「慰め、励まし」の意味もある）でもあります。

２．助け主である聖霊は、私たちに慰めと励ましを与えて下さいます。人生を振り返りましょう。私も皆さんも、人生の辛い時に聖霊の慰め、励ましを受け続けています。聖書は、神の息、つまり聖霊に動かされた人々によって書かれたもの（Ⅱペテロ１：２１）。それ故、聖霊は、心に直接、又は聖書のみことばや人々を用いて慰め、励ましてくださいます。証し：人生を振り返り。私も皆さんも。神は直接、又は三位一体であるご聖霊を通して私たちを慰めてくださいます→「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰める（そばにいて耳を傾け寄り添う）ことができます」Ⅱコリント１：４。証し：人生を振り返り。パウロが語る苦しみは、主の福音を宣べ伝え、ひどい迫害に会ったことを示しているでしょう。また同時に「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます」とありますから、私たちが人生において出会うすべての苦しみが含まれています。どのような苦しみの中を通っていても、私たちには慰め主である聖霊が共にいてくださいます。人が苦しまれている時、私たちはその人の苦しみを理解したい、慰めたいと思います。しかし、私たち人間には限界があり、誰かに代わって苦しむことも、その苦しみを取り除くこともできないのです。ある方の証し「被災地での支援をしていた時のことです。前日まで楽しく過ごしていた家が一夜にして流され、家族を亡くした方のお話を聴かせていただいたことがあります。『自分は助けることができなかった。何もすることができなかった、苦しそうに息を引き取って行くのを見ているしかなかった。自分が代わりに死にたかった』と涙ながらに話し、自分が生きていることに罪悪感を感じておられました。苦しみを取り除いてあげられない。私はこの方の悲しみを取り除くことが出来ない。人が人を慰めるには限界があります。「神は、どのような苦しみのときにも、私

たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます」。私たちは苦しみに会いますが、慰め主である聖霊なる神から慰め（寄り添い、共感、理解、うちなる力）を受け、その慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰める（寄り添う、気持ちを聴く、共感、共に泣く、その方に聖霊の慰め、力が与えられるように神にとりなし祈る）ことができます。続くⅡコリント１：５に「私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです」とあります。ここで「キリストの苦難」というみことばに注目しましょう。私たちが、イエス様の事を伝えようとする時、家族や友人から反対されることがあります。苦しんでいる人、痛みの中にある人に、主の愛をもって、手を差し伸べようとしても、その手を振り払われ、「あなたには私の気持ちなんて分からない」と言われることもあります。傷んでいる人のために心を砕こうとする時、私たちは攻撃される事もあります。その時こそ、私たちは、主が私たちの罪を贖って（私たちの罪を償い、滅びから買い戻し、私たちを神ご自身の大切な存在、宝とされた）下さるために負われた「キリストの苦難」を体験しているのです。ある人の証し：「ある時、宣教旅行でダウン症の子どもたちのキャンプに参加しました。私は、W 君を担当しました。彼は５歳で、とてもかわいらしい男の子でしたが、初めて家族のもとを離れてのキャンプでした。彼は、とても混乱していました。彼に着替えさせようとすると、抵抗し暴れました。私が近づくと逃げ回ります。他の子たちは工作をしたり、聖書の話を聴いているのに、私は一日中、W 君を追いかけ回していました。私は情けなくなり、「どうしてこんなところに来てしまったのだろう」と落ち込みました。次の日も追いかけっこです。途中で疲れてしまい「もう放っておこう」と何度も思いましたが、キャンプ場には大きな池がありました。池に落ちてしまう危険がありました。「この子は何にも分かっていないんだろうな。危ないなんて思わないだろうな」と思いつつ彼の手を取りに行った時に、彼の姿とかつての私の姿が重なりました。私も「神がいなくても大丈夫」と思い、神様と共に歩いていなかった時期がありました。しかし、神様はそのような私を見捨てず、救いへと導いて下さったことを思い出し、神様への感謝が溢れたのです。その時、私はどこまでも W 君を追いかけようと覚悟を決めました。キャンプの後半、W 君は心を開き、私のそばを離れなくなりました。お別れの日、泣きながら私の後を追いかけて来る彼の姿を見ながら涙が溢れました」。人はいつか別れの時が来ます。しかし、惜しみなく注いでくださる愛と慰めの神、見放されない、見捨てない愛の神、聖霊は、永遠に私たちと共にいて下さいます。

Ⅱ　御聖霊は、私たちに真理を教えてくださるお方であり苦しみの中、慰めてくださる方です。

１.「この方は真理の御霊です」ヨハネ１４：１７。私たちの心に住まわれるご聖霊により頼みつつ、主の救いの福音を伝えようとする時、迫害を受け、かえって私たちは主の十字架の苦しみ、主の愛、真理を深く知るようになります。そして、真理を知ることを通して、主が導かれる人々のために、一歩を踏み出す愛、勇気が与えられます。御聖霊は、愛を示し祈り忍耐すべき時か、福音を伝えるべき時か識別力も与えられます。御聖霊は、真理を教える（「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます」ヨハネ１６：１３）だけではなく、私たちを力づけてくださる方です。「聖霊があなたがたのうちに臨むとき、あなたがたは力を受けます」使徒１：８。※証し：伝道熱心の私と臆病な私への助け。

２.「私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているの

と同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます」Ⅱコリント１：６。そのおかげで今の私、皆さんの存在があります。傷ついている方々に近づき、共に歩き続けることは、その方と共に痛み、共に悲しみ、共に苦しむこと。それは、人の愛では無理です。あまりに苦しく途中で投げ出したくなります。しかし、私たちには、希望があります。慰め主である聖霊が、私たちと苦しんでいる人と共におられます。自分には、愛も力もないことを認め父・子・聖霊なる神に拠り頼みましょう。まず、自分自身が、神の愛に憩いましょう。人から拒絶される時には神に委ねましょう。そして慰め主である聖霊により頼む時に、新しい力、愛、慰めが与えられ、苦しみ悲しむ人に寄り添う人に変えられ続けます。焦って励まそうとせず、沈黙を恐れず、寄り添いましょう。私は聴く事しかできなかった時に先日は聴いて下さり感謝しますと感謝されました。聖霊は、黙して寄り添う時と愛をもって希望のみことばを語る時を識別するように導いて下さいます。